

外から見える兵教組



前日教組養護教員部長
(2006~2011年度)
山本 春枝
(姫路支部 津田小分会)



導や健康教育が必要だった。日教組では、1962年から研究会等で子どもの健康実態が報告され、すべての子どもが健康であることを目標に、また、私たち

兵教組運動ととも 養護教員部の発展にむけて

日教組で、専門部として養護教員部が発足して60年が経過した。当時の養護教員の職務内容は、しらみ、寄生虫卵の駆除、感染症の予防だった。このような子どもたちの健康課題の解決には、教育の環として保健指

校・いじめなどメンタルに関することや、アレルギー疾患、感染症と多様化・複雑化してきた。また、東日本大震災、原発事故から子どもの安全確保についても議論がすすめられてい

している。しかし、今、全国的に組合への加入が減ってきている。職場の多忙化で教職員同士がゆっくり話し合う時間がないことも大きな原因だが、組合が煩わしい、

教育実践をしていくなかで、このような子どもたちと向き合っていくには、行政の指示で画一的、一律的におこなうのではなく、地域や子どもの実態に即した学校保健を創っていくことが重要だ。そのためには子どもたちの現実から学ぶ、仲間から学ぶ、そして、つながり合うことが大切だ。

兵教組は、第25回中央委員会、9月23日告示、30日投票の三田市議会議員選挙に、ひわだ充さん(現市議会議員)を推薦することを決定した。ひわださんは、1

三田市議会議員選挙

9月23日告示、30日投票の三田市議会議員選挙に、ひわだ充さん(現市議会議員)を推薦することを決定した。ひわださんは、1

9月30日(日)投票
ひわだ充さんの必勝を!
私たちの声を議会へ

教職員共済生協の自動車共済

は申込日の翌日から補償開始だから安心!

補償充実コースなら人身傷害補償付だからより安心

充実の割引制度

- 新車割引
- セカンドカー割引
- 組合員はめて割引
- エコカー・福祉車両割引

ご契約例

排気量1500cc以下(Aクラス)/18等級/運転者35歳以上補償
上記の条件で補償充実コースS型をご契約いただくと

対人賠償: 無制限	自損事故: 人身傷害で補償	[新車割引]適用なら掛金10%OFFで
対物賠償: 無制限	自損事故: 2億円	
人身傷害: 5,000万円	搭乗者傷害: 1,000万円	26,240円
他車運転優先払特約、対物超過修理費用つき	年掛金	29,160円

ご契約にあたっては必ずパンフレットおよび重要事項等説明書(契約概要・注意喚起情報)をご覧ください。 承10-企-16(1005)

兵教組養護教員部 第52回サマーセミナー



8月8日、兵教組養護教員部第52回サマーセミナーがラッセホールで開催され、県内より約150人が参加した。全体会では、加藤寛さん

(兵庫県こころのケアセンター・センター長)を講師に、「災害後のこころのケア」と題した講演があった。(次号要旨掲載予定) 中央情報報告では、高緑

の身分を確立するため、学校教育法に必置職員として位置づけるための運動にとりくんできた。

その後、「子どもの悩みや問題点にふれて」、「子どもの健康権の確立について」、「養護教員部運動の強化発展のために」をテーマとする3つの分科会で、活発な討議がおこなわれた。



「福島県東日本大震災復興基金」 カンパ寄贈

7月26日、盛岡にて開催された日教組第156回中央委員会会場において、兵教組委員より、福島県東日本大震災復興基金に兵教組組合員のカンパを寄贈した。この基金は、将来の福島を担う子どもたちのために、福島県教組と日教組福島支部が設立したもの。五十嵐委員長は、「震災

うございます」とお礼を言われた。福島県教組は、中央委員会において「県の東半分が0.6マイクロシールドを超えている。子どもの心のケアや教育活動を行っていない」と報告もされていた。

減少は毎年2千人前後だったが、震災後の2年間で1万4千人減少(8月文科省調査)している。冊子には「フクシマ」には、避難したくてもできない子どもや保護者が何万人も生活している。「フクシマ」の事実を伝え、その後をいかに生きるかを考えることが、私たちの責任ではないか」と書かれている。

直後、山名委員長(当時)がいち早く兵庫から福島に來られ、その時いただいた義援金を、生活に困っていた臨時の任用教職員への支援に活用させていただいた。今回の寄贈もありがと

教育ひょうご

発行所 神戸市中央区中山手通4丁目10-8
兵庫教職員組合
発行人 兵庫教職員組合 代表者 雄一郎
編集人 池田啓子
電話 050(3538)2346
1部7円 年定価280円
(組合員の購読料は組合費の中に含む)

2012/9-15
No. 1821
2面
第39回教育課程編成講座(後期)
「活動に培った確かなカリキュラムと探求を活用しよう」
岡部恭幸さん公演より要旨

第61次全国教研(富山)においても、生活科や総合学習で野原や山の自然に触れられなくなった、外遊びができず子どもの体力が落ちてきている、「結婚しても子どもが産めないかもしれない」という子どもがいる。兵教組は、被災地から兵庫に転入している子どもたちへの就学支援(図書カード)など必要な支援を続けるとともに、被災地の要請に応じた息の長い協力・支援をおこなっていく。

他者と関わりながら活動することで始まる確かなわかり

岡部 恭幸さん (算数・数学教育研究会協力研究員)

7月27日、ラッセホールにおいて第39回教育課程編成講座(後期)が開催された。神戸大学大学院人間発達環境学研究所の岡部恭幸さんが、「活動に培う確かなわかり―習得と探求を活用でつなぐ―」をテーマに講演した。

活用とは

今回は「活用」、「算数的活動」、「言語活動」の3つをキーワードに授業改善について話す。

私は数学概念の構造を研究していて、子どもがわかるといって現場の授業を見てみると、違和感を覚える。こうすればきっと子どもが生き生きと活動するのではないかという思いがある。

「活用する力」とは「知識・技能や考え方を日常生活

象の問題などの解決に利用する力」、「知識・技能や考え方を算数の学習に利用する力」という2つを指し、さらに「学んだ知識・技能や考え方の確実な定着」、「知識・技能や考え方がわかる」ことが「活用」の意義とされる。

「習得・活用・探求」というのは現場ではなかなか難しいので、今回はこれを中心に話をしたいと思う。現場に行く、活用についてどうしたらいいのかとよく聞かれる。活用だけではなく「習得・活用・探求」ととらえる方がわかりやすい。

その他の能力をばくみ、主体的に学習に取り組む態度を養うこと」という文言が加わったからである。算数の授業では、既習事項を使って色々やってみる活動をもっと取り入れるべきである。ただし、子どもが主体的になるようにかつ協同的におこなうことが重要である。



一言で言えば、「聞いてわかる」ではなくて「やってわかる」を大事にしてほしいということである。伝聞してわかったことをもう一度やって使ってみることでわかり直す。

「活用」、つまり、「やってみる・使ってみる」を実現することは「わかり直すこと」の重要性を意識することなのである。

例えば面積の学習で8平方cmの平行四辺形と三角形をつくる活動を取り上げる。最初は底辺の上に高さがある図形をつくるものが多いが、数人は底辺の外に高さがある図形をつくる。これが1回目の活動である。

次に自分の考えた図形を交流させる。自分には思い浮かばなかった友達の考えに触れることで、「自分ならもったいな風に考えられる」、「本当にそれで上手かいくのか確かめてみよう」などという意欲がさらに沸

一般化

授業の中で子どもたちを主体的に活動させるためには、「一般化」が一つのキーワードとなる。

一般化とは「算数において、ある性質や法則が確立されると、その性質や法則の範囲内で適用しようとする試みが行われること」である。これは数学的思考の本質とか人間の思考の本質であるとさえいわれる。

活動を仕組むときにこれを意識することで、より児童の主体的な活動を促すことができる。

しかし、子ども自身が「こんな時はどうなるかな」、「本当にこの考え方でこれでもできるのかな」等と考えていけるような活動を用意するのは容易ではない。

そのためには、教師の深い教材研究が必要となる。算数の学びとして適切でないと活動が楽しくても子どもの確かなわかりにはつながらない。

適切な教材において、子どもたちが自分でやっていこうと思える、意欲をもつて適切に活動する時に確かなわかりにつながっていくのである。最近、教科書に「○○を使って」とか「学びをいか

そう」などという頁があるが、そのようなところは教師がこのような活動を実現しようとしたときに大きなヒントとなる。

小学生の算数の授業でよくおこなわれている問題解決型の学習は「つかむ・見通す・解決する・振り返る」という4つの段階で指導されることが多い。しかし、その形式ばかりが先行し、一部の子どもが発表・交流で終わってしまうことも少なくはない。

交流で学んだ新しい考えを自分なりにもう一度「やってみる」、「ためしてみ」ことで子どもはより自分のわかりを確かめることになる。一人ひとりに十分な思考活動、言語活動を充実させるためには早めに交流をさせ、その後の活動に時間をかけることも時には必要である。

「児童が目的意識を持って主体的に取り組む算数に関する様々な活動」と定義されている。

主体的とはただ活動するのではなく、子どもが自分の活動としてきちんと表現し、その内容を最もかまいたい所で本格的な活動をするのが大事である。

さらに重要なことは、算数に関わる様々な活動についてである。様々な活動には話し合い活動も思考活動も操作的活動も含まれる

が、いずれも一連の活動であることが大事であり、そこに思考活動が働くことで子どもが主体的に考えるようになる。

結論としては「適切な活動にすること、子どもの主体的・協同的な活動にすること」が大事である。ひとりではなくて周りとの関わりながら学んでいくことが重要であり、そうすることで一人ひとりのわかりがより確かなものとなっていくのではない。

そのためには、「習得・活用・探求」、つまり「学んだことを使って色々やってみる」活動を実現することがひとつのつながりになるのである。

当初のテーマは「活動から始まる確かなわかり」であった。つまりは「やってみる」ことを大事にしようということである。説明で気付いたものを、本当に自分のものとするためにやってみることを大事にするべきだと考えている。

そのようなことが一番効果的に表れるのは、活用の学習場面、つまりやったこと、学習したことを実際に使っているところやってみる場面である。つまり習得と探求を活用でつなぐことのできるような学習が可能となるのである。

主体的な取り組み

算数的活動については「児童が目的意識を持って主体的に取り組む算数に関する様々な活動」と定義されている。

主体的とはただ活動するのではなく、子どもが自分の活動としてきちんと表現し、その内容を最もかまいたい所で本格的な活動をするのが大事である。

厚生会ハイブリッド積立

申込受付中です！

申込締切日：11月16日(金)

厚生会がプロデュースするセカンドライフの新しいかたち！

～現職中から自助努力で積立。退職後のゆとりある生活のために～

すまいる積立預金 5年もの

0.025%

優遇

+

年金

パッピーライフ年金
～拠出型企業年金保険～

=

安心

厚生会ハイブリッド積立

現職中からゆとりある将来の設計をサポートする「厚生会ハイブリッド積立」。毎月の給料から積立をし、退職後から年金を受給することができます。※詳細は9月から配付のパンフレットをご参照ください。

貯蓄と年金をバランスよく準備できます
パッピーライフ年金では、5年確定年金、10年確定年金、10年保証付終身年金の3つのプランから選択いただけます。

お問合せ先 (財)兵庫県学校厚生会 事業企画部

TEL 078-331-9974

※「厚生会ハイブリッド積立」は学校厚生会の「すまいる積立預金」と「パッピーライフ年金」(拠出型企業年金保険【引受保険会社：日本生命保険相互会社】)を同時に案内するもので2つの商品はそれぞれ独立しており相互に連帯しません。
※すまいる積立預金(5年もの)の預金金利は、変動金利・半年複利で金利情勢により変更します。通常5年ものに0.025%上乗せした金利を適用します。